

阿蘇海産マイワシに寄生していたサツパノギンカ

宮津市の漁業者からマイワシに寄生虫が付いているとの連絡を受けて検査を行ったところ、体表に長さ2cm程度の寄生虫が確認されました。

この寄生虫を水族寄生虫の専門家に見ていただいたところ、魚の体表に寄生するウオノエの仲間で、サツパノギンカ *Anilocra clupei* という寄生虫であることが分かりました。これまで京都府からの報告例はありませんでしたので、どこか別の海域でマイワシに寄生し、京都府まで回遊してきたものと考えられます。

サツパノギンカは鉤状になった把握器と顎を使って宿主となる魚に取り付き、体液を吸い取って成長していきます。毒を産生せず、人に寄生することはありませんので、本寄生虫自体や寄生されている魚を食べてしまっても基本的に人体への影響はありません。ただし、エビやカニと同じ甲殻類の仲間であるため、甲殻類アレルギーの方は反応が出る可能性がありますので注意が必要です。



マイワシに寄生していたサツパノギンカ *Anilocra clupei*